

<総合型地域スポーツクラブ> はしま南部スポーツ村

設 立 趣 意 書

我々、『はしま南部スポーツ村』設立準備委員会は、設立に向けたこの2年半の歩みにおいて地域の「スポーツ事情」について調査し、定例会議において議論してまいりました。

その結果、羽島市においては、成人の週1回以上の運動実施率は38.5%（全国）と言われる中において、『スポーツ活動に関する意識調査（H14）』において、成人の1週間に1度以上のスポーツ実施率は18%、また、この南部地区においての調査（H17）では、四町平均27%であることが分かりました。このように日常的にスポーツに親しんでいる人々が意外に少ない現実があります。こうした現実を改善していく手がかりは、次の4点であります。

- （1）日本のスポーツはこれまで、学校を舞台に「教育」として実施されてきており、卒業後は企業によって支えられてきました。その仕組みが近年崩れてきたこと。
- （2）社会構造が幾多の複雑に絡む要因により変化し、それとともに人々のライフスタイルと価値観が大きく変化してきました。こうした中、身体と精神のバランスが崩れることによる疾病が多いのも特徴であります。スポーツはこのことに大きな効能を発揮できること。
- （3）スポーツは、「できる人のもの、若い人がやるもの」などをはじめ、「勝利」にしか価値は生まれないという認識が根強いのですが、健康の保持増進をはじめ、生きがいを生むこと。
- （4）子どもたちは「時間／空間／仲間」を失いがちであります。身体活動としての運動を伴う遊びの機会が限られてきています。少年期における身体づくりと社会性の発達が危惧されること。

さて、『はしま南部スポーツ村』の母体地区である堀津町・上中町・下中町・桑原町では、子ども達は、学校の施設規模や教職員の定数の制約を受け、何にでも興味・関心が高い小学生時代にも限られたスポーツにしか親しめず、自己の可能性に気づく中学生時代にさえ、選択肢は極めて限定されたものでしかありません。この選択は、単一・数年間で必ずしも志向にあったものではありません。また、スポーツ少年団では子どもが少なく、数年後が心配される状況があります。子ども会の活動は、地域慣例の中で硬直化し、スポーツ少年団の子ども達が参加できないという実情があります。

ところが、大人はソフトバレー、剣道、卓球、テニス、ソフトボール、サッカーをはじめ、老人クラブを含めれば70チームを越える団体がスポーツに親しんでいます。長年スポーツに親しみ、指導に長けた人々が小中学生の指導者としてともにスポーツに関わるならば理想的と言えます。

施設においては堀津・中島・桑原の各小学校、中島／桑原中学校の各グラウンド、体育館、武道場として利用できる2施設、及び緑豊かな木曽川、長良川の河川敷グラウンドには、400m陸上競技場、サッカー場、多目的グラウンド、グラウンドゴルフ場は魅力的であります。

こうした実情を鑑みつつ、地域の資源や力を生かし、私達は「いつでも、どこでも、だれもが、いつまでも自分の年齢や体力、志向にあったスポーツの親しみと健康の保持・増進ができるような環境を提供すること」を目的とする『はしま南部スポーツ村』を設立すれば、すべての住民（会員）に心身の健全な発育、発達を促すことができます。

スポーツ（身体活動）を通じて、子どもたちに責任感やフェアプレーの精神を学ばせ、中高年やシルバー世代には無理せず、健康の保持と増進を図ることを提供します。さらには、世代や障害の有無を乗り越えて一緒に楽しくスポーツを行なえば、地域の輪や和やかな地域感情、コミュニケーションを生み、明るく住みよい安心・安全な社会を築いていくことができると考えます。

最後に、地域住民(会員)の方々におかれましてはこの趣旨にご賛同いただくと同時に、自主運営、受益者負担の原則に基づき、本クラブの結成やクラブ諸事業へのご支援、ご協力、ご参加を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成19年9月
<はしま南部スポーツ村設立準備委員会>

* 今後において微修正を予定しています。